

第41回東京圏国家戦略特別区域会議 東京都提出資料

令和5年6月19日

特区税制を活用した外国人向けインターナショナルスクール整備の促進

- 国際競争力の強化にあたり、外国人ビジネスパーソンの子女の教育環境を整備し、生活環境の充実を図ることが必要
- 設備投資促進税制を活用して、虎ノ門・麻布台地区に外国人向けインターナショナルスクールを整備
⇒多くの外国人ビジネスパーソンを東京に呼び込み、国際的なビジネス拠点の形成につなげる。

外国人向けインターナショナルスクールの概要

- 外国人子女が、本国での教育に遅れをとらないように、海外の学校に入学・転入できるレベルのカリキュラムを実施
- 都心のインターナショナルスクールとして最大規模のスポーツ施設を整備（専用グラウンド、体育館、プール等）
- 学校法人渋谷教育学園「ブリティッシュ・スクール・イン・東京」が運営
（対象：3歳から11歳（700名規模を想定） 開校予定時期：令和5年8月下旬）



中央広場からのぞむスクール外観（イメージ）

- 事業主体：森ビル株式会社・日本郵便株式会社
- 設置場所：港区虎ノ門五丁目、麻布台一丁目
- 竣工予定：令和5年6月
- 開校予定：令和5年8月下旬
- 施設名：ブリティッシュ・スクール・イン・東京
- 延床面積：約14,000㎡（校舎）
約1,800㎡（グラウンド、900㎡×2か所）
- 階数：地上7階～地下1階



特区税制を活用したMICE施設整備

- MICEの開催は、高い経済波及効果や産業力の強化、開催地のプレゼンス向上など、開催都市に様々な恩恵をもたらし、都市の競争力強化に貢献
- 設備投資促進税制の活用により、虎ノ門一・二丁目地区にアフターコンベンションや宿泊まで一貫して対応できる大型複合MICE施設を整備
⇒MICEに係る国際競争力を強化し、国際的なビジネス拠点の形成につなげる。

虎ノ門一・二丁目地区におけるMICEエリアの整備

- メインホール、ギャラリー、ラボ、宿泊施設等を備えた大型複合MICE施設を整備
 - メインホール
バーチャル配信が可能な設備を導入し、新たなビジネスやイノベーションの発表など多様なニーズへ対応
 - ギャラリー及びラボ
複数の多機能なギャラリーを揃えることによって、ビジネスからエンターテイメントまで幅広い需要へ対応。また、ラボへ最新設備を導入することで、新たな都市体験やコンテンツを創出し、広く世界に向けて発信
- アフターコンベンションやユニークベニューとして活用できる設備を屋上空間に整備

- 事業主体：森ビル株式会社
- 設置場所：東京都港区虎ノ門一・二丁目
- 竣工予定：令和5年7月
- 延床面積：約24,000㎡
- 客室数：205室
- 階層：11～14階（宿泊施設）、8階・45～49階（メインホール等）
（建物全体：地上49階、地下4階）



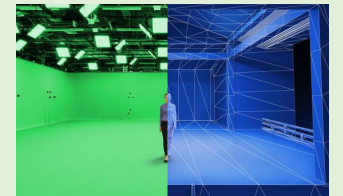
メインホール「TOKYO NODE HALL」



体験型企画展も可能なギャラリー
「TOKYO NODE GALLERY」



アフターコンベンションなどに活用可能な
屋上空間



クリエイターとの共創の場
「TOKYO NODE LAB」

都市再生プロジェクトの追加（49→51）

- 東京都は、現在、国際競争力の強化に資する49の都市再生プロジェクトを都市計画法の特例等の対象としており、今回、事業の熟度が高まってきた2プロジェクトを追加

【有楽町一丁目10・12地区】

事業主体：三菱地所株式会社

- JR有楽町駅周辺の再整備と連携した、駅周辺の回遊性を強化する歩行者ネットワークの形成
- ビジネスイノベーションを生み出す人材育成・ビジネス創発及び情報発信等を行う拠点の形成と、MICEや都市観光に資する施設の整備



<計画地のイメージ>

【丸の内三丁目1地区】

事業主体：三菱地所株式会社、東宝株式会社、
公益財団法人出光美術館

- 有楽町駅周辺の改良への寄与、地下鉄駅とまちを一体化する空間等、有楽町エリアの発展を支え魅力を高める都市基盤整備
- 国内の文化芸術をけん引してきた有楽町エリアを代表する劇場・美術館を再整備し、国内外から幅広い人々を呼び込む、賑わいのある文化芸術機能を強化



<計画地のイメージ>